

西方地区若連会

前代表 新田英智さん 代表 千葉大知さん 会員 大田一輝さん



西方水かけまつりを 後世につなぐために ～西方地区若連会の取組み～

地区の誇りを守ろうと奮闘する
西方地区若連会から3名に参加していただき、
祭りにかける想いを語っていただきました。

Q 子どもの頃に見た西方水かけまつりはどんな記憶ですか？

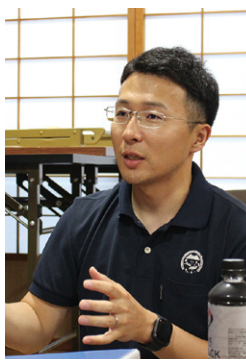
千葉 私が子どもの頃は水かけに参加する大人が20〜30人はいたと思います。私の親もやっていたので身近な祭りでした。

新田 子どもの視点では、「真冬で寒いのに、なぜ元日からこんなことをやっているんだろう」という気持ちでした。

大田 私も「バカやってんな〜」が正直な気持ちでした(笑)。

新田 でも反面、大人の大人が盛り上がり、心から楽しんでいるので、「すごい」「うらやましい」という気持ちもありました。

千葉 それが今では、若連会員はたったの8人。子どもも地区内に10人以下です。寂しく感じますね。



Q 存続に向けた行動の原動力は何ですか？

新田 一番は、子どもたちに夏の記憶を残すことです。自分が子ども

も持ったことで、いずれ自分たちの子どもが同じ局面で悩むのであれば、自分たちの代で何とか解決したいと思うようになりました。1月の本祭はもちろん、ちびっ子水かけまつりを通じて子どもたちが祭りを認知して、将来大人になったときに「自分たちも祭りをやる」と思ってもらえたらなと。



千葉 自分たちの代で終わらせることは簡単なんです。でも、いざなくしてみたら心にぽっかり穴が開いたような感じにもなることもわかっていて。「それならちよつと抗ってみようよ」ということで、若連会ですつと試行錯誤して話しています。

Q 次の世代にどう受け継いでいってほしいですか？

新田 西方地区だけではいずれ限界が来ることはわかっていいますから、祭りの根幹はしっかりと

守りながら、将来的には三春町全体に参加資格を広げるなどの必要があると思っています。

千葉 運営費やケガ人が出た場合のリスクなど、広げることで生まれる新たな課題もきつとあると思いますが、時代の変化に合わせて祭りも変えなくちゃいけない時代だと思っています。残すべきところは残しつつ、それ以外に関しては今の形式にこだわらずに存続の可能性を探っていききたいです。

大田 私は千葉さんや新田さんの下の世代ですから、まずは先輩方の意見を尊重しながら一緒に頑張ります。今思い描いている形とは違う形であったとしても、西方地区若連会という存在を残していきたいです。



◎ちびっ子水かけまつりの情報は
西方地区若連会の公式Instagramをチェック！



ぜひCheck
してみてくださいね！